

墜落捜索、オスプレイ派遣

米、屋久島沖事故で別型機

鹿児島県・屋久島沖の米空軍輸送機CV-22オスプレイ墜落事故で、在日米軍は

州防衛局に申し入れたと明らかにした。

鹿児島県奄美市（沖縄県宜野湾市）に所属する別タイプのMV-22オスプレイを鹿児島県・奄美大島の奄美空港に派遣した。救難活動と人員輸送のためとしている。鹿児島県の塩田康一知事は同日、安全に万全を期し、陸上を飛行しないことを米側に要請するよう九

海軍仕様のCMV-22の運用飛行は停止したが、MV-22

は続いている。日本政府は

米側に対し、日本国内での

オスプレイ運用について、

安全が確認されてから飛行

を行うよう要請している

が、捜索救助活動での使用

は容認している。

2機のMV-22が2日前8時50分ごろ、奄美空港に

着陸。午後1時ごとにもう1機が飛来し、離着陸が繰り返された。屋久島の住民は不安の声を上げた。11月29日にCV-22が落下し、巨

大な水しぶきが上がる瞬間

を目撃した屋久島町の漁師

中島正道さん（68）は「オスプレイが飛ぶと思うと恐怖

でたまらない」と話した。

屋久島では2日朝、長老

4・5組、高さ2メートル幅1

・5メートルの、墜落機の翼

の可能性がある物が陸揚げ

されたことが、関係者への取材で分かった。事故では

搭乗員1人が死」。